



岩井よしえ Tel/Fax955-7340 深良 2706-2  
(ブログ、ツイッター、YouTube) 岩井よしえ  
yosie-820aug@purple.plala.or.jp



岡本かずえ Tel/Fax992-5174 茶畑 854-3E101  
(ブログ、ツイッター、YouTube) 岡本かずえ  
peace\_love\_cabird@yahoo.co.jp

# 明るい裾野

弱いひと 困っているひとの味方—直線の共産党

困ったことは岡本かずえ、岩井よしえのなんでも相談へ

① 3月議会・岡本和枝議員の一般質問から ② 高村市政について ③ 県道・深良神山線路線図

## 3月議会 (要約) 岡本和枝の一般質問から

### 1. 生活困窮者自立支援制度について

生活困窮者自立支援制度がスタートして1年になります。生活困窮の定義というのは、現に今、経済的に困り最低限度の生活を維持することができなくなる恐れのある状態で、明確な収入や資産所有の基準はありません。本人が何らかの理由で、生活困窮の恐れがある場合は、すべて制度の対象になります。

1) **岡本** 必須事業として、市役所に自立相談支援事業の「相談窓口」が設けられま

した。この1年間の事業の実績と課題について伺います。

**健康福祉部長** 4月から2月末までの相談受け付け件数は66件、住宅確保給付金の利用者は無かった。任意事業の一時生活支援事業は、1件2万2,680円あった。

課題は、初回相談時に、生活状況の全てを話す相談者が少なく、根本的な解決を目指そうとする相談が少ない傾向にある。生活困窮の早い段階での相談が必要であり、制度の浸透を図っていくことが課題と考えている。

2) **岡本** 一時的な相談に終わって、根本的な解決を目指そうとする相談が少なかった理由は。

**健康福祉部長** 長期的な視点の中で自立を支援していくことが目的だが、相談の多くがもう食べるものがないとか、住むところがないとか、緊急的な相談がかなり多かった。相談の中では、法外援護費の支給が17件、フードバンクを利用した食料提供が14件(31人)あった。

3) **岡本** 緊急的な相談が多い原因と、相談窓口での対応策はどうされているのか伺う。

**健康福祉部長** 光熱費の滞納であったり、ライフラインの停止、家賃の未納等によって退去を要求されているという相談も多か



った。市としては、法の目的に基づいて、長期的な支援を目指す支援を提案した。

**4) 岡本** 生活困窮・寄り添い型支援（伴走型支援）は包括的な支援体制です。就労、日常生活、社会参加などのさまざまな支援を行います。生活困窮相談窓口に加えて（若者支援体制の一つとしても）必要性をどう考えるか。

**健康福祉部長** 寄り添いが必要な方に対しては、柔軟な支援をしている。状況によっては必要と考えている。

## 2. 浜岡地域原子力災害広域避難計画（広域避難計画）について、裾野市は県にどのような意見を挙げているか。



広域避難計画は、中部電力浜岡原発から31キロ圏内の11市町の94万6,000人の住民が対象で、原子力災害が単独で起こった場合は静岡県内市町、加えて隣接県や東海地方の県に避難先を確保する計画です。大規模地震との複合災害の場合は、関東甲信地方や北陸地方の都県にも避難先がおよびます。

裾野市も藤枝市（146,459人）、焼津市（143,564人）の受け入れ候補の一つとなっ

ています。避難の際には、静岡県が県内市町に受け入れの可否を確認のうえで避難先を行うとなっている。

自家用車で、東名や新東名を使つての避難が基本とされているようですが、この計画で住民を守れるのでしょうか。

この広域避難計画案について、裾野市は県に対して、風水害や火山噴火など市が対応するような災害が発生していない状況の中では、避難者を受け入れる意見を提出しています。

また、浜岡原発から直線距離で90キロの裾野市。大規模過酷事故を想定した場合、市町や県が実効性のある広域避難計画を責任を持って策定、実行する事ができるか伺いました。市長答弁は「現在策定中の浜岡地域原子力災害広域避難計画は県の計画なので、責任を持って策定、実行できるかについては、現段階では市町が意見を述べる立場にはないと考えている。」でした。

南海トラフ巨大地震の想定震源域にある浜岡原発。多くの人の避難を考えても、浜岡原発は廃炉にすべきではないでしょうか。

## 3. 防衛予算を使って建設した集会所施設や地区コミセン、屋内体育施設に関する解体費用の地元負担について

市の答弁は「市事業として地区集会所などを整備した場合、建設工事費のうち、市で定めた率の地元負担金と、それ以外の設計費、外構工事費。解体費用などの経費は地元負担とすることは地元区も合意の上で事業着手をしている」とし、地方自治法にのっとつての公の施設と言うより「地元区と市との紳士的取り決めで行っております」ということでした。「区長会を通じてコミュニティ施設として再調査を行ってみたい」

とのとの答弁もありましたので、今後に期待したいともいます。



子育てをキャッチフレーズにしながら子育ての切り捨てを行う。

駅西区画整理と大企業向けを除いた他の分野も以下同文で切り捨て・切り下げ。

こう言う市政を続けるとしっぺ返しを食らうことになるのではないのでしょうか。

## (仮称) 神山・深良線は こうなります

交通渋滞の緩和、産業や観光の振興、防災機能の強化など、多くの効果が期待できる道路として、昨年1月27日に裾野市、御殿場市の間で道路の整備事業に関する協定書



に調印し、平成 39 年度の完成を目指す「(仮称) 神山深良線」。

その線形が決まり関係地権者への説明が実施されました。(地図参照)

## 「市は高村商事？」という市民の 声が聞こえる高村市政 これでいいの？

高村市長になってこんな市民の声が聞こえてきます。

「実体がなにかわからないキャッチフレーズが溢れている」

「イベントだらけ」

「まるで高村商事」

というもの。



裾野市内線形について担当課に伺ったところ、道路整備の要望がされていた、岩波16, 17, 19組との取り付け道路設置をするとのことでした。今まで急な坂道のみで、特に冬は大変な思いをされてきた皆さんの生活の安全に繋がることと思います。

今年度、一般財源から負担金として 75,000 千円が計上されています。29年度には用地買収、工事着手が予定されており、補助事業として実施されます。

「(仮称)神山深良線」が通ることによって、他道路の交通渋滞緩和が期待されるとのことですが、市道1-4号線が抱えている振動問題への対策が急務です。今年度、工事が行われる予定で市負担金の予算も計上されていますが、質疑では、県事業であり、国の事業予算が不確定の段階で、実施時期も未定とのことでした。早期実施を要望するとともに、情報をお知らせしていきます。



想定外の曲がりくねった道路ですね。山を削り谷を埋めてぐるっと回りながら神山へ抜ける道路です。